

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和2年度病虫害発生予察技術情報第8号について (送付)

このことについて、病虫害発生予察技術情報第8号 (イチゴのハダニ類) を発表したの送付します。

技術情報第8号

1 対象作物名: イチゴ

2 病虫害名: ハダニ類

3 これまでの発生状況

2月5半旬調査の結果、発生ほ場率は前年、平年よりやや少なかったものの、寄生株率は25.1%と過去10年間で最も高かった。ほ場間差は非常に大きく、寄生株率は0%から100%まで認められている(データ略)。

- ・寄生株率 25.1% (平年 16.1%、前年 11.1%)
- ・発生ほ場率 46.2% (平年 67.0%、前年 71.4%)

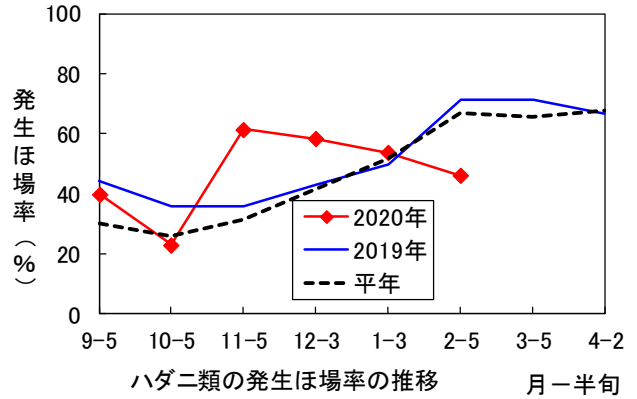
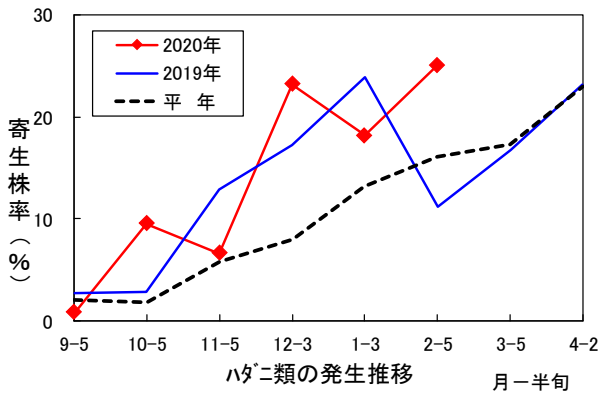


表 2月5半旬における寄生株率の推移

調査年	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
寄生株率 (%)	14.7	19.1	14.7	13.5	18.5	23.3	19.3	14.4	12.4	11.1	25.1

4 防除上注意すべき事項

- (1) ハウス内は除草を徹底し増殖源を絶つ。除去した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れてほ場から持ち出し、処分する。
- (2) 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、発生初期の防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。
- (3) ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性に乏しいため、必要に応じて展着剤を加用し、葉裏に薬剤が十分かかるよう、丁寧な散布を心がける。
- (4) 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、気門封鎖剤も含めて、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (5) 気門封鎖剤は、卵に効果が低い剤もあり、残効性も短いので、連用する場合は約7日間隔で複数回散布する。
- (6) ミツバチに影響が少ない薬剤を使用する。

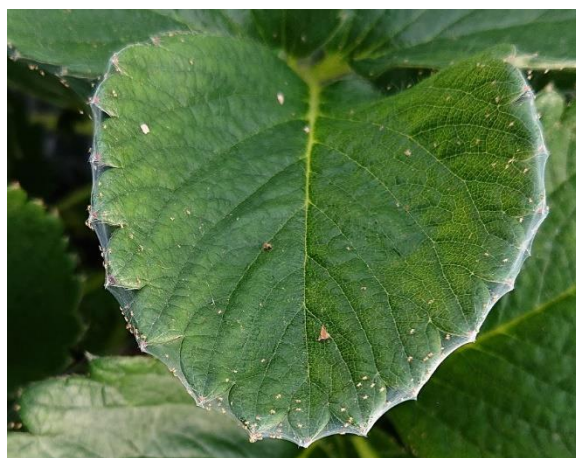


写真1 ハダニ類の多発葉（くもの巣状）

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。

